

平成 25 年度 第 6 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

藤原 良一 栗島 聡 岡田 清久

Activity Report of SPM Research Committee

Ryoichi Fujihara Satoshi Kurishima Kiyohisa Okada

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 25 年 12 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用して検討しています。今年度は要件をプロジェクト成果物に整理するための方法を検討しています。研究会は月 1 回の頻度で開催しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・10 月 24 日:

ProMAC2013 での成果発表に備えて、発表練習、および資料を精査しました。また新しい話題として、プロジェクト早期段階での決断がその後のプロジェクトにどのような影響を与えるか、事例アンケートの結果の報告と議論がありました。

<今後の予定>

・12 月 12 日: 研究会開催予定

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則 2 か月に 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心に各会員が発表しています。現在、新規会員を募集中です。分野を問わずリスクやリスク・マネジメントに関心・興味のある方大歓迎です。

<今後の予定>

11 月 30 日に例会を開催します。会員各自の研究テーマについて発表し、意見交換します。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】 spm-risk@yahoo.co.jp

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試んでいます。

・11月15日: 研究会開催

「再生可能エネルギープロジェクトの取り組みを通じた復興まちづくり」と題し、宮古市の事例について、講師に宮古市総務企画部復興推進課 自然エネルギー推進室長 木村剛 (きむらつよし) 氏をお招きし、事例学習と意見交換を行いました。

[場所: 豊洲センタービル21F F会議室]

講義内容:

① 宮古市の概要

- ・4市町村が合併し、全国で8番目に広い市
- ・明治29年, 昭和8年の大地震, 昭和35年のチリ沖地震などを経験

② スマートコミュニティプロジェクトの紹介

- ・震災を教訓として、下記のコンセプトで実施し
- ・災害時に自立型でエネルギー供給できるように宮古の多様な自然資源を活用した再生可能エネルギーを利用

・スマートコミュニティはCEMSを中心とし、

BEMSや植物工, カーシェアリングを実施

- ・継続させる仕組みとして特別目的会社 (SPC) を官民で立ち上げ

③ ブルーチャレンジプロジェクトの紹介

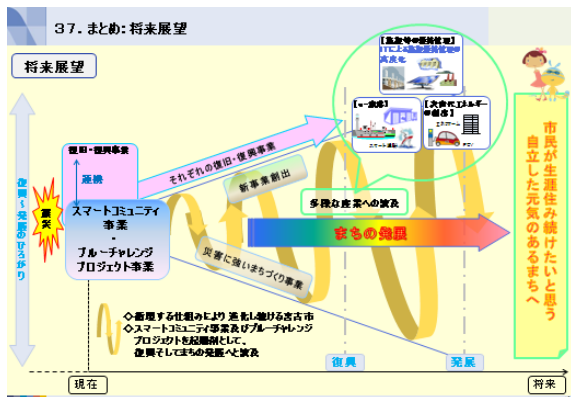
- ・トヨタ自動車を中心に、ブルータワー (木質バイオマス) からの水素を中心としたまちづくり

④ 官民連携モデルについて

- ・官民連携を密なコミュニケーションによって作

り上げている

- ・官民のそれぞれのメリット・デメリットを認識しながら、新たな地域経営モデルを作り上げていきたい



<今後の予定>

- ・1月10日：研究会開催予定
今までの事例研究（柏市、豊田市、宮古市）の取りまとめと今後の研究会活動計画について

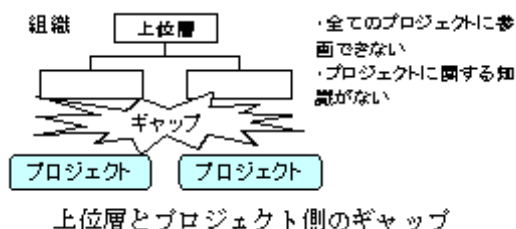
【問い合わせ先】yoshidakn@nttdatacs.co.jp（吉田）

(4) PM人材育成研究会

（主査：池田 修一 富士ゼロックス）

10月度は、第4回連載記事となる「プロジェクトでのモチベーションの維持・向上」についての活発な議論がありました。組織を構成する各メンバーのモチベーションが組織活動の成果に大きな影響を与えます。今回のテーマは特にPMの立場で“やる気持の動機づけ”を検討し、モチベーションに関する構造の分析や高揚・維持策を検討しました。

11月度は、個別テーマとなる「上位層向けのPM人材育成」について議論を行いました。企業内で改革等のプロジェクトを実施する場合に、経営者を含む上位層側とプロジェクト側に様々なギャップが発生することがあり、これらの課題を抽出しました。



プロジェクトマネジメントを組織として実施する際に不可欠となる上位層に対して、どのように関わってもらうのか、またプロジェクトマネジメントに関する知識をどのようにつけてもらうか等

を議論しました。

プロジェクトを自ら実施した経験のある上位層であれば、プロジェクトに関する理解はあるのですが、全ての上位層がプロジェクトの経験があるとは限りません。このために上位層によってプロジェクトに対しての視点が異なり、不要な指摘をしてプロジェクトを混乱させてしまうことがあります。このようなことを起こさないためにも、上位層にプロジェクトの理解を高めるために、上位層にプロジェクトマネジメントに関する教育の実施することや、上位層を補佐する“目利き”ができる人材を配置する等の施策を考えました。今後、この“目利き”について深く議論する予定です。

<今後の予定>

- 1月度 第5回連載記事「多様なステークホルダーマネジメント」についての議論・確認
- 2月度 「上位層向けのPM人材育成」についての議論 第3回目
- 3月度 第6回連載記事「PMのリーダーシップの新たな視点」についての議論・確認
- 4月度 「上位層向けのPM人材育成」についての議論 第4回目

<成果物>

PM人材育成研究会 連載第2部

- ・第2部プロローグ（西沢）
- ・PMに求められる新コンピテンシー（池田）
- ・アジャイルプロジェクトマネジメントって何？（伊藤）

【問い合わせ先】pm-com@yahoogroups.jp

(5) パーソナルPM研究会

（主査：富永 章 PMラボラトリー）

パーソナルPMは、PM手法とプロセスに加え、心構えや行動、セルフマネジメント、周囲への貢献など、コンピテンシー分野を含みます。さらに、自分自身への動機づけや習慣づくり、心の持ち方、など個人PMだからこそ重要な要素が多々あります。

目的と目標の構造、リスク、ステークホルダー、スコープ、段取り、ポートフォリオ等を中心に、各自が自由な追究テーマを掲げています。例えば時間の有効活用、GTD、人の育成、良い成果の関係者との共有、こどもびいえむ、デモチベーション対策、人生の充実、ツール、事例分析、教育など多彩です。

近年の技術進展が引起こす新たなデモチベーション要素等、新しい調査やアイデアも含め、月例となった会合で自由闊達な討議が行われています。

当研究会のロードマップが目指すゴールは、パーソナルPMをモダンPMの1領域にすることです。

書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」の出版以来、社会でのこの領域への関心と認知度が少しずつ高まっていることがWeb検索で分かります。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・10月18日：第58回会合（於 筑波大学東京）
こどもびいえむ、フラクタル研究、著名人にみるパーソナルPMerぶり、自由発表
- ・11月19日：第59回会合（於 筑波大学東京）
教育へのTOC、パーソナルPM関連書籍、情報共有、自由発表等テーマ8件

<今後の予定>

- ・12月16日：第60回会合（於 筑波大学東京）
本年の活動まとめ、来年のフォーラム開催検討、自由発表他

(6) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・10月16日：第48回定例会合開催
10月26日開催予定の大阪ワークショップの準備会合の位置づけで定例会を開催いたしました。当日の流れに沿って講演資料や役割分担などの最終確認を行いました。
- ・10月26日：MH研究会 大阪ワークショップ
大阪大学中之島センターにおいて、「メンタルヘルス研究会 2013年度ワークショップ in 大阪」を開催しました。当日のワークショップでは、PM学会、関係企業等から合計36名が参加し、メンタルヘルス対策に関する最新動向を学ぶとともに、率直な意見交換を行いました。

講演1では、メンタルヘルス研究会における過去5回に渡るこれまでのワークショップを「SECIプロセス」を通して紹介し、各地で開催されたワークショップでの講演内容や成果物を図や写真を使用して説明しました。また、「ウェルネス（Wellness）」という言葉で我々メンタルヘルス研究会の今後の活動の方向性を表現しました。

講演2では昨今のメンタルヘルス対策の状況を

踏まえて、富士通株式会社の健康施策や組織活性化のための具体的な施策が紹介されました。

最後のワールドカフェでは、リラックスした雰囲気の中、テーマに集中した前向きな会話を、4～5人のグループにて行い、途中メンバーを入れ替え、他のグループの考えと結びつけながら、参加者全体での新たな知識創造にチャレンジしました。最終的に、メンタルヘルス問題を解決するために「ダイバーシティ（多様な価値観）によって、企業文化を変えることが必要」ということに気づくことができたのは今回の大きな成果でした。



参加者集合写真

- ・11月20日：第49回定例会合開催

「社員の幸せを考えるプロジェクトマネージャ、経営部門からみたメンタルヘルス・マネジメント」と題して勉強会を実施しました。

新しいことに挑戦すること、人をまとめることはとても大きなストレスであり、プロジェクトはこれら2つを厳しい納期要求の中で達成しないといけないのでメンタルに非常に負荷がかかる、ということが生々しい実体験とともに説明され、参加者から強い共感を得ていました。

また、ヒューマン・ビッグデータ・センサーが人の脳内活動を見える化することで、社員の活性化が業績向上に結びつく可能性が示唆され、非常に有意義な会合となりました。

<今後の予定>

- ・12月18日：第50回定例会合開催予定

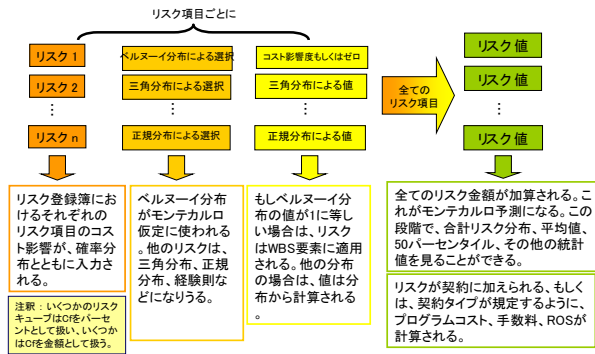
【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。例えば、以下の図はモンテカルロモデルによるリスク値計算の概念を示したものです。

(3) モンテカルロ・モデルの準備: リスク登録簿モデルによる合計リスクの決定 - 混合リスクタイプ



CEBoK Module-9 より引用

＜今後の予定＞

引き続き「コスト・スケジュールのリスク分析」の学習を継続し 12 月中には学習を完了する予定です。その後、学習によって得た知識を元に、プロジェクトマネジメントへの応用という観点で研究を進めます。研究の成果は、解説論文などの形式で発表することを検討中です。

会合は1回/月を目安に会合を行いますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。各回の会合で、前提知識は必要ないので、途中参加の方も歓迎します。研究会メンバーは Excel 統計および CEBoK 研究などの活動で作成したコンテンツを社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

(8) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 久保 裕史 千葉工業大学)

「研究開発プロジェクト」で役に立つ PM の知識体系構築を最終ゴールに据え、産学 20 名のメンバーが活動中です。これまでの調査・研究活動や過去 6 回実施した特別講演会での検討により、R&D (Research & Development: 研究開発) への PM 適用上の問題は、「ものづくり R&D」固有の問題ではなく、R&D 全般の共通課題であることが明らかになってきました。例えば、問題点のひとつとして、現在用いられている PM 技法には、R&D の初期段階、即ち「R: 研究」段階で使えるツールが殆ど整備されていないことが挙げられます。

今年度は、昨年度抽出した 18 の問題点解決に向けて、次の 4 つのワーキンググループ (WG) に分かれて、連携しながら活動を進めています。

「啓蒙 WG」(リーダー: 下田篤) では、業種別にそれぞれのニーズに合った効果的な R&D 用 PM 手法の事例研究を進めています。

「プロセス定義・ツール WG」(リーダー: 清田守) では、R&D 用 PM のプロセス定義の明確化と R&D に使える PM ツールの提案をミッションと

して活動を進めています。

「ステージゲート WG」(リーダー: 久保裕史) では、R&D PM にステージゲート (SG) 法を組み入れることによる制約条件下でのイノベーション創出促進を目標に、活動を進めています。

「人材育成 WG」(リーダー: 五百井俊宏) では、R&D プロジェクトでリーダーシップを発揮できる人材の育成を目標に活動を進めています。

今後、これら 4 つの WG が互いに切磋琢磨しながら、今年度目標の「R&D PM における必須要件の明確化」達成に向け活動を進めていきます。以上に述べた本研究会の活動状況は、11 月 8 日開催の ProMAC2013 (ベトナム・ハノイ市) で報告しました。

＜過去 2 ヶ月の活動実績＞

- ・10 月 24 日: 第 3 回 WG リーダー会
第 9 回研究会定例会
- ・11 月 8 日: ProMAC2013 で活動報告
- ・11 月 28 日: シンポジウム準備委員会

＜今後の予定＞

- ・12 月 19 日: 第 10 回定例会
(於 千葉工大津田沼)
- ・2 月 14 日: 第 1 回シンポジウム参加
(主催: 千葉工大, 於 千葉工大津田沼)

【問い合わせ先】rd-pm@googlegroups.com

(9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査: 本間 利久 北海道大学)

2012 年 10 月に発足した研究会です。この間、11 回の研究会と「ワークショップ 2013 in ソウル」を実施しました。これまでの研究会の活動内容は学会誌平成 24 年 12 号、平成 25 年 2 月号～10 月号の研究会報告に掲載されています。

研究会名称のフロネシスは、実践的知恵 (practical wisdom) と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト (PMBOK®ガイド) を取り巻いている世界 (①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制) を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践的知恵を探究し、その研究成果を外部に発信していくこ

とを研究会の目的としています。

<過去2ヶ月の活動実績>

10月17日(木)第10回研究会を(株)アスカブ
ランニングで開催し、理事会の説明資料として研究
委員会に提出した報告書を基に、ワークショップ
2013in ソウルの実施結果について説明した後、
PDUの発行および韓国側関係者からの礼状につい
て紹介しました。また、ワークショップの講演資
料・写真等の情報を研究会メンバー間で共有する
ための方法について検討しました。さらに、2014
年度の研究会活動として、学会誌の連載記事・特
集号への投稿を企画することとし、ワークショッ
プ2014の開催に関しては、ProMAC2013ハノイに
おいて関係者と相談することとしました。最後に、
ワークショップ2013in ソウルで紹介された書籍
「アジア最強の経営を考える」(ダイヤモンド社、
2013)の内容は、研究会の活動内容と合致する面
が多いので、著者のひとり金頭哲教授(ソウル大
学国際学院)による日本での講演会を企画検討し、
研究会の活動の一環とすることとしました。

11月21日(木)第11回研究会を(株)アスカブ
ランニングで開催し、第5回研究委員会議事録を基
にワークショップのコピーライトの状況について
説明しました。次年度の研究会活動として、学会
編修委員会から次年度の学会誌の連載記事の掲載
企画が承認され、第1回を岩尾委員にお願いする
ことにしました。第2回以降の連載記事は永谷副
主査が企画依頼することとしました。2014年2月
号特集号解説記事「人とチームのマネジメント」
についても投稿を検討することとしました。さら
に、金頭哲教授(ソウル大学国際学院)による講

演会活動についてのソウル大学訪問報告を基に、8
月札幌にて講演会およびフロネシス PM 研究会を
企画することとしました。また、東京における講
演会も検討することとしました。また、ワークシ
ョプ2014の開催地に関して、永谷副主査からの
ProMAC2013 ハノイでの検討結果を基に、マレー
シア同様にインドネシアも開催地に含め検討する
ことにしました。最後に、学会の研究会 HP の更
新が研究委員会で認められましたので、情報共有
のための更新をすることとしました。

<今後の予定>

第12回研究会は、12月19日(木)(株)アスカ
ブランニングで開催を予定しています。としまし
た。2014年度の研究会活動として、学会誌の連載
記事、ワークショップ開催およびプロジェクトマ
ネジメント学会春季大会での講演等について検討
し、書籍・資料等の紹介を行う予定です。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に
関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 藤原 良一
fujihara-ryoichi@mdis.co.jp

研究委員会委員 吉田 賢吾
yoshida-kengo@mdis.co.jp

研究委員会委員 赤羽根 亮子
akabane-akiko@mdis.co.jp